

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4371000565		
法人名	社会福祉法人 愛敬会		
事業所名	グループホーム 清泉		
所在地	熊本県菊池市七城町亀尾2484		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://seach.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/">http://seach.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年3月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かで静かな環境の中、ゆったりと入居者お一人おひとりを尊重した暮らしを支援している。又、医療との連携により、健康管理に努め、隣接した施設の機能を活かした地域との交流を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員の入居者への思いは、ハード面への手入れにも表れている。玄関から廊下・リビング・居室をはじめどの空間にも、「ホッ!」とする心配りが窺える。入居者がお母様の入所先に面会を希望し実現したことが、ホーム便りに本人が執筆されており、いくつになっても親子・母への思いに胸が熱くなる便りである。開所以来初めての看取り支援は、重度化し居室でやすまることが多くなっても帰宅支援を行なうなど、困難と思われがちなことにも実現に至ったことは、家族との信頼関係、主治医や職員の「その方の大切なものに伝えたい」という一途な思いからであろう。運営推進会議の中で、参加者より独居・認知症・老々介護・入所待機者など高齢化社会の抱える身近な問題に施設の増床が話題となった。ホームとして又、法人として地域の抱えるこの問題に力を発揮できる機会が訪れることが期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛」「安心」「地域と共に」の理念を掲げ、地域密着型の事業所であることを大切にしている。	玄関に掲示された3項目の理念を、職員は出・退勤時に確認することで日々のケアの規範としている。この1年は、法人理念を共有している併設施設職員1名との異動のみで入居者は、馴染みの職員と穏やかな日常生活を過ごすことができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に犬の散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、野菜をいただいたり交流している。	天候のよい日は近隣を散歩し、地域の方々と挨拶を交わしたり、畑作業をされている農家の方から野菜の差し入れなど「御近所さん」の交流になってきている。ホームの周りに民家はなく同敷地内の併設事業所も地域と捉え、インフルエンザで控えていたデイサービス等との交流も2月から再開された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、中学生の福祉体験を受け入れ、中学生による花植えボランティアと利用者との交流も行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の入居者状況や活動状況を毎回、報告し、意見や助言をいただいております。運営推進会議の内容をグループホーム会議で報告している。	入居者やホームの現況報告と併せ、外部評価結果についても説明・報告がされている。参加者より地域でも身近に高齢者介護の抱える問題について意見が出された。ホームとして今後もこの問題に取り組み、地域貢献に努めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査時、法人全体の行事に参加していただき、利用者の状況等を見ていただいている。	担当者とは運営推進会議をはじめ、法人の行事などにも参加をしてもらい、入居者と交流することで気づきや意見をもらうなど良好な関係が構築されている。市の育成事業である傾聴ボランティアの実習生を受け入れるなど、市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束に関する勉強会に参加し職員の共有認識を図っている。また玄関の鍵をかけずに自由な生活ができるように支援し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、一緒に散歩に出かけるなど対応している。	法人内の身体拘束に関する勉強会に参加したり、会議や申し送り時にも、管理者は事例をあげた話し等を通し、拘束のないケアについて確認し合っている。ホームケアマネジャーのセンター方式に関する研修会への参加、その後の共有により、職員間の入居者一人ひとりの尊厳や思いに配慮した関わりが、これまでと違った良いケアになっていると代表者は感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会で理解し、マニュアルをつくり、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会で学ぶ機会があったが、今のところ活用のための支援はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時に契約に関する説明を行い、利用者や家族の不安がないよう、理解、納得していただけるよう努め、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制なども説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望の出しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議への家族の参加により、意見や要望を聞く機会を設け、家族よりお手伝い出来ることはないかと言ってくれる時もある。	職員は入居者との日々の関わりの中で思いや要望を聞き入れ、家族からは訪問時や電話連絡、運営推進会議の中で要望を尋ねている。入居時に公的機関や第三者の相談窓口も説明している。家族としてできる事に協力したという気持ちに対して、不穏時に家族がドライブ外出支援をされ、お互いの思いが深まるなど良い結果が入居者の表情に表れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議への参加や年1回以上の個人面談により、管理者は直接運営に関する職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月のグループホーム会議や運営者と年1回・ホーム長と2回の面談時に意見や要望を聞き入れている。脱衣所の安全面に配慮した手すりの設置要望に対し、早速設置に向け検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は夜勤業務負担の軽減の為、勤務体制の見直しを行うなど職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内での職員研修・外部での職員研修への参加の他、全員参加の外部講師を招いての“接遇研修”を行った。又、認知症リーダー研修受講によりホーム全体で学習に取り組んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者には常に同業者との意見交換する機会を与え、又、職員にはリーダー研修で他事業所へ実習に行ったことの伝達や、自主的な他事業所の見学への支援を行い、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず訪問し、お話する機会を設けて、本人の思いを理解し、入居時はその都度困っていることがないか本人の訴えを傾聴し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービスの利用状況や家族が困っていること、不安なこと等、時間をかけ、ゆっくり聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を傾聴し、今何に対して困っているか、必要としているかを見極め、その人に合ったサービスを提案、情報を提供している。必要な方には、法人内のデイサービスの利用でこれまでの生活の継続ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、時には利用者よりねぎらいの言葉かけや利用者同士でも、助け合ったり、気づかう場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談するとともに、墓参り、病院受診、お見舞い、法事等家族との関わりを大切にしている。又、年末の居室の掃除などは利用者と共にご家族にさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、毎週自宅に帰り、仏壇参りや、地域の人との交流の継続ができています。	入居者のこれまでを大切に、家族の協力のもと、お母様の入所先への面会・毎週の帰宅・正月の帰省や外泊・墓参など入居者の健康状態に充分配慮し、その予定が実行できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間を設けたりして、利用者が孤立しないように配慮している。他の方とのコミュニケーションができない方には、職員が間に入って他の方々とのコミュニケーションがとれるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても併設施設での行事やクラブ活動で共に楽しむ機会があり、移り住む先の関係者に対して本人の状況、習慣など情報を詳しく伝え環境の継続性等に配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを用い、利用者の希望や意向の把握に努めている。また、その方にとっての困りごとは何かを理解する為にICFの視点で話し合うことを取り組んでいます。	その方にとって何を、どういう事を望まれているのか、職員は思いや意向の把握に、センター方式シートの活用や、職員間での気づきを共有する時間を大切にしている。又、来訪時や電話等により家族から情報を得るケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを用い、家族に生活歴など記入していただいたり、聴き取りをすることで情報を収集し、これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行うことで心身状態の把握に努め、利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望が反映できるよう、ケアカンファレンスには、本人や家族にも参加していただいている。月1回はモニタリングを行い、見直しを行っている。	本人・家族の意見が反映できるようケアカンファレンスへの参加を依頼し、十分な話し合いや説明により介護計画を作成している。医師や管理栄養士、職員の意見やアドバイスが活かされたプランは月1回のモニタリングにより見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、食事、排泄、身体状況及び日々の暮らしの様子を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしており、口頭での申し送りや申し送りノートの活用で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、病院への送迎や、外泊時の送迎等、柔軟に対応し、寝たきりの利用者の入浴は併設の機械浴で対応した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望で訪問理容サービスを利用したり、市の文化祭に作品を出品したり、市役所まで投票に行ったり、地域とのつながりを大切にできるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や毎日の定時報告で健康管理に努めている。専門分野においては、従来のかかりつけ医の受診を支援している。眼科と歯科に関しては訪問診療を受けている。	入居時に希望のかかりつけ医について説明を行っている。主治医により訪問診療や毎日定刻に入居者の状態を報告し健康管理に努めている。他科受診については家族対応としているがホームでも柔軟に支援している。高齢者医療に熱心な歯科医と眼科医による訪問診療も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置し、介護職員と共に健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には頻回に病院を訪れ、その後の状況観察と家族との話し合いに努めている。医療機関とも早期退院に向け情報交換をこまめに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、指針と同意書を作り、家族にアンケートをとり、本人と家族の意向を確認している。医師との連携を密にし、又、併設事業所の支援体制も整えることで終末期ケアを実施した。	入居時に大まかなホームの方針と説明を行い状態や重度化した時点で同意書を作成している。今年度医師を交えた家族との複数回の話し合いや希望の確認により、関係者の心をつなげたターミナル支援が行われた。主治医による日常的な健康管理や24時間緊急体制は、職員・家族の大きな安心と支えとなり今回の支援に繋がった。	今後は全家族に指針の周知と共有が望まれると同時に、職員のメンタル面にも配慮した研修会の充実が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、マニュアルに沿って対応している。発作、誤嚥などの対処方法等については、全ての職員が対応出来るように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに沿って、定期的に特養やデイの協力を得ながら、昼間、夜間想定で避難訓練を行い、消火器の使い方も消防署の協力を得て行っている。	隣接の特養施設やデイサービスの協力で、2か月に1度、昼・夜想定自主訓練を行い、消防署の協力を得ての総合訓練では、非常ベルや消火器の使用方法等の実技訓練を実施している。防火管理者による自主点検や防災教育の中で自然災害についても研修を行い、運営推進会議のメンバーや地域消防団への協力を呼びかけている。	毎月災害に対する意識を高め有事に備える取り組みは大いに評価できる。今後は地域住民や消防団の参加による訓練の実施や協力体制が期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗に関しては、特に注意を払い、プライバシーの保護に努めている。又、利用者の気持ちを大切に考え自己決定しやすい言葉かけに努めている。	法人内の接遇やプライバシーについての研修会に参加し、職員は一人ひとりに対し呼称や入室時のノックなど尊敬と思いやりをもって接している。個人情報の使用や職員の守秘義務について、重要事項説明書で周知を行っている。尊厳やプライバシーに配慮し、夜間のみ使用のポータブルトイレは毎朝別の場所でクロスをかけ保管し、個々の紙パンツなどは手作りの紙ボックスに収納するなど細かい配慮である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかり易い言葉でゆっくりと利用者の目線で話しかけている。レクや趣味活動なども無理な押しつけをせず、利用者を選択できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースを大切にし、起床や就寝時間、夜間入浴の希望など利用者の気分や状況に応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張の有料カットや昔からの行きつけの美容院へ出かけられ、カットや染め、パーマなどのおしゃれをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを把握し、おやつ作りや調理の下ごしらえなど積極的に関わっていただいている。	朝・夕食と3度のご飯をホームで作り、昼食は法人で料理されたもの(管理栄養士が作成した、だしにもこだわったメニュー)を利用することで、午前中の入居者との関わりの時間に繋げている。好みに添い選択メニュー(肉を魚へ変更など)やキザミ、2度炊きなど個々に応じた支援である。入居者は座位でできる下ごしらえや味見などを手伝い、地元の米や差し入れの野菜・自家製きな粉・馴染みの肉、魚屋さんの配達で食材にもこだわるなど安心して楽しい食事支援となっている。	ゆっくりと個々のペースで食事を楽しまれており、後片付けなどの音には十分配慮いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックや献立のカロリー計算をして提供し、個別に二度炊きや副菜を食べやすい大きさに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後は洗面台にて行っていただく。利用者によっては、食卓で行う時もある。夜間は義歯をはずし清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間をみて誘導してトイレで排泄できるように支援している。訴えを表出できない利用者に対しては動きをキャッチして誘導している。	日中はトイレでの排泄に努め、誘導・見守りにより支援している。布パンツ使用の方が多く、ホームの自立に向けた支援が窺い知れる。ケアカンファレンスの中でも、排泄支援について個々に応じた支援であることが記録からも確認できる。夜間使用したポータブルトイレも昼間は居室から移動し清潔に保管されることも気持ち良いケアに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、プルーン、さつまいもなど繊維質を多く含む食品の摂取に努め、十分な水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を取り入れ、夜間入浴を実施している。利用者の中には、半身浴や湯温にも配慮し、個別に対応している。	入居者の希望や体調に合わせ毎日支援できるよう準備している。「温まって寝たい」との要望に夜間入浴の支援や、湯温も個々に合わせ調整している。拒否に対しても無理強いせず、ことばかけを工夫したり、時間をずらし支援している。浴室・脱衣所の温度調節、又、水質検査も毎日行い安心・安全な入浴に繋がっている。	脱衣所の手すりが検討されており、安全な入浴支援に繋がると思われる。実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒がりの方には、居室を適温に暖め、気持ちよく入眠、起床が出来るよう支援している。天気の良い日は畳の間で日なたぼっこをして過ごされることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、本人に手渡したり、口腔内に投薬し、服用の確認を行っている。又、薬の形態によっては、飲みやすい粉剤で提供している。処方の変更や副作用の説明等は個人ファイルに保管し、全職員にわかるように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	梅干し作りや干し柿作り等、利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作り、ドライブやブドウ狩りに出かけ気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけたり、東屋やベランダで喫茶を楽しんだり、利用者の中には、家族支援で毎週自宅へ外出されている。	季節の花々を楽しめる広い敷地の散歩やホーム愛犬との散歩・日当たり良いベランダや東屋での食事やお茶タイムを楽しんでいる。今年度はインフルエンザの影響で外出の機会が例年より制限されたが、コスモス見学や植木市に出かけたり、家族の協力により毎週の帰省を楽しみにされている入居者もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身がお金を所持され、病院や買い物に行かれることもある。有料カットのときには、ご自分のサイフから支払をされる利用者もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をかけられたり、年賀状や暑中見舞い等のやりとりの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に沿ってカーテンの開閉を行い、眩しくないような空間作りに努めている。冬季はシャッターを閉め、防音、防寒に努めている。季節を感じてもらえる演出(クリスマスツリー、鏡餅、ひな飾り、季節の花や季節感のある貼り絵など他)行っている。	玄関周りには季節の花が植えられ、木の温もりと明るい窓の清潔感あふれるホームは、ソファでテレビを見たり、段上がりの畳の間で洗濯物たたみや、足を伸ばし寛いだりと入居者に優しい空間が作られている。株分けして増やした観葉植物、季節を感じる飾りや置物に職員の思いが窺われ、寒さ対策のシャッターや入居者に合わせ採光を調整するなど、居心地良く過ごせる工夫が随所に表れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間で寝ころんだり、食堂で新聞を広げたり、テレビ鑑賞をされる利用者や、なかには、居室で自由にすごされる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や思い出の品を居室に飾り、安心できる住環境作りに配慮しており、ベッドに馴染みの無い方には、畳で対応を行っている。	一人ひとりの個性や好みに合わせ、職員手作りのミニのれんや飾りをあしらいたい女性らしい居室作りに配慮している。四季を味わえる環境の居室には、家族の協力により写真やプレゼント品・得意な書道での表彰状の掲示や見やすい文字盤の目覚まし時計や、持ち込まれたテーブルの上には小説本・職員手作りの足置き台など家族と職員の配慮による居室作りがどの部屋からも窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りのため、居間のソファの配置や利用者の車椅子や歩行器等の収納に配慮している。		